

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	5
➤ 「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2022」の結果のお知らせ

5 月 9 日に締め切りました、「桜のある水辺風景 2022」には 48 点の応募がありました。この度、JRRN 事務局メンバー 6 名で 2 度の最終審査を行い選定した最優秀賞 2 点、優秀賞 1 点をインスタの投稿コメントとともにご紹介します。

【最優秀賞 : sayaka3533 さん (2 枚組)】



公津の杜公園
(千葉県成田市)

【最優秀賞 : sayumiiw さん】



西濠のライトアップ
定番の景色ですが眺めていると賑やかな人々の声が聞こえなくなるような美しさです
(青森県弘前市 弘前公園 西濠)

【優秀賞 : nao/h さん (3 枚組)】



「地元の桜が見事だった。」
さすが名所と云われるだけあるなー 
(埼玉県鴻巣市 元荒川)



最優秀者、優秀者の方へは表彰状とともに副賞を贈らせていただきました。

素敵な写真を応募していただいたみなさま、

「いいね！」を押していただいたみなさま、本当にありがとうございました。昨年度より本企画をInstagramへ移行したことにより、JRRN 会員の方々はもとより、全国各地の河川・海岸・水辺で活動している皆さん、学生のみなさんともご縁ができました。Instagram 初心者の方の担当はとても感動しています。

JRRN では、今後も Instagram での情報発信を続けていきます。是非、「チェック」「フォロー」「いいね！」をよろしくお願いいたします。

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー今年も「小さな自然再生」現地研修会開催地を募集中！

2015 年よりスタートしたこの研修会は、昨年度まで計 14 回開催しております。中でも昨年度までの 2 年間はコロナ禍ではありましたが、開催規模を縮小し、感染防止対策を徹底することで、現地関係者と協働で座学と屋外フィールドワークによる現地研修会を継続して開催してまいりました。

昨年度に引き続き、今年度も現地研修会の開催地を皆様から広く募集し、ご応募いただいた現場の特徴、河川管理者等との連携状況、地元の川づくりの担い手の実施体制等について事前にご相談させて頂き、最終的に 3 カ所の開催地を絞り込んでいきたいと思っております。また、事前調整結果として今年度は開催できなくても、来年度以降の開催候補地として、今回の応募をご縁に交流させて頂き、小さな自然再生の実践に向けた可能なサポートをしていきたいと考えております。

今年度の開催地募集の詳細、開催候補地のイメージ等については、次ページ以降の募集案内チラシをご覧ください。

なお、この小さな自然再生普及促進に向けた取組は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けるとともに、全国で小さな自然再生の取組に尽力されている「小さな自然再生」研究会の専門家チームのご協力を頂きながら実施しております。

(JRRN 事務局・和田彰)



2021 年度に開催した全 3 回の現地研修会の様子
(左上：東京都・善福寺川、右上：北海道・釧路川支流)
(下：滋賀県・大川)

「小さな自然再生」現地研修会 開催地位置図



全 14 回の「小さな自然再生」現地研修会開催地とテーマ

2022 年度 水辺の「小さな自然再生」現地研修会 開催を希望する “現場” を募集します

(2022 年 6 月 10 日 (金) 応募〆切)



2022 年 5 月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

様々な主体と協働しながら、多種多様な生きものが生育・生息できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度も「小さな自然再生」現地研修会を開催します。

現地の川づくり・流域づくりの担い手の方々、研修会一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等を一緒に学ばせて頂くフィールドがあれば、是非ともご応募ください。

下記募集要項をご確認の上、ご興味のある方はご応募、ご相談をお待ちしております。

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場を有する川づくりの担い手の方々（市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.）

※ご応募頂いた後、JRRN 事務局より詳細のご相談をさせて頂き、開催について調整させて頂きます。

【“応募者” と “JRRN” の主な役割分担】

◇応募者：現場作業に向けた地元調整（管理者等との調整、資材調達、地元広報 等）

◇JRRN：専門家推挙・派遣（旅費・謝金等の費用負担含む）、座学会場手配（会場費含）

地元外広報、研修会進行、研修会成果とりまとめ・普及 等

※研修プログラムは応募者のご要望を踏まえ JRRN や研究会専門家と一緒に考えます。

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

◇応募期間： 2022 年 5 月 23 日 (月) ～6 月 10 日 (金)

◇今後のスケジュール： ※新型コロナウイルス感染拡大状況により変更の場合があります

・～6/10 (金)： 開催を希望する現場の公募

・～6 月末： 各開催候補地との調整 → 開催地を決定（3 箇所程度）

・7 月～： 企画調整 及び 開催に向けた準備開始

・10 月～11 月頃： 「小さな自然再生」現地研修会の開催（3 回程度）

【応募方法】

氏名、所属、連絡先（住所・電話・e-mail）とともに下記申込先まで E メールにてご応募下さい。

【応募申込み・お問い合わせ】 E-mail: info@arr.net

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 担当： 和田彰・白尾豪宏

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F（公財）リバーフロント研究所内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@arr.net Website: <http://www.arr.net/jp/>



Collaborative Nature Restoration
「小さな自然再生」研究会



公益財団法人
リバーフロント研究所



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

研修会の開催候補地のイメージはこんな感じです

小さな自然再生とは？ <http://www.collabo-river.jp/>

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義しています。

- (1) 自己調達できる資金規模であること
- (2) 多様な主体による参画と協働が可能であること
- (3) 修復と撤去が容易であること

① 河川管理者の協力が得られる現場であること

できれば座学のみではなく、川に入っの小さな自然再生活動までを研修会を通じて実施できればと考えております。

その場合には、河川管理者の許可が得られる現場であることが条件となります。

これまでの研修会では、共催や後援、協力として現場の河川管理者に協力頂いておりますが、研修会開催の合意形成や事前手続きの簡素化、また研修会以降の活動の継続性等を考慮すると、河川管理者の応援を得た行事とすることはとても大切なことです。（必ずしも「連携」できていなくても構いませんが、河川管理者が反対している現場においては、強引に開催することはありません。）

② 地元に活動主体がいること

現場に活動主体がいることが重要な条件です。現地研修会を一過性の打ち上げ花火にせず、研修会がきっかけとなり、これまでの地元の活動が更に充実すること、または新たな活動が動き出すことを後押しすることに研修会の狙いです。そのためにも、地元の主役（団体）の存在が大切な開催条件となります。

③ 準備や当日の運営に際し地元主体と JRRN で役割分担をして協働できること

本資料冒頭で触れている通り、地元主体と JRRN で以下のような分担をしながら「協働」で企画開催させていただきます。

<地元に担って頂くこと>

おすめの現場の提案、河川管理者との調整、地元関係者への広報、資材等の可能な範囲の調達 etc.

<JRRN が担えること>

地元のニーズを踏まえたプログラムの提案、講師招聘（費用負担も）、河川管理者との調整のサポート、座学会場やバス手配（費用負担含む）、地元以外の広報、工具等のレンタルや購入、研修成果のとりまとめ、研修成果の普及

たくさんの皆様からのご応募、ご相談をお待ちしております。

【お問い合わせ】



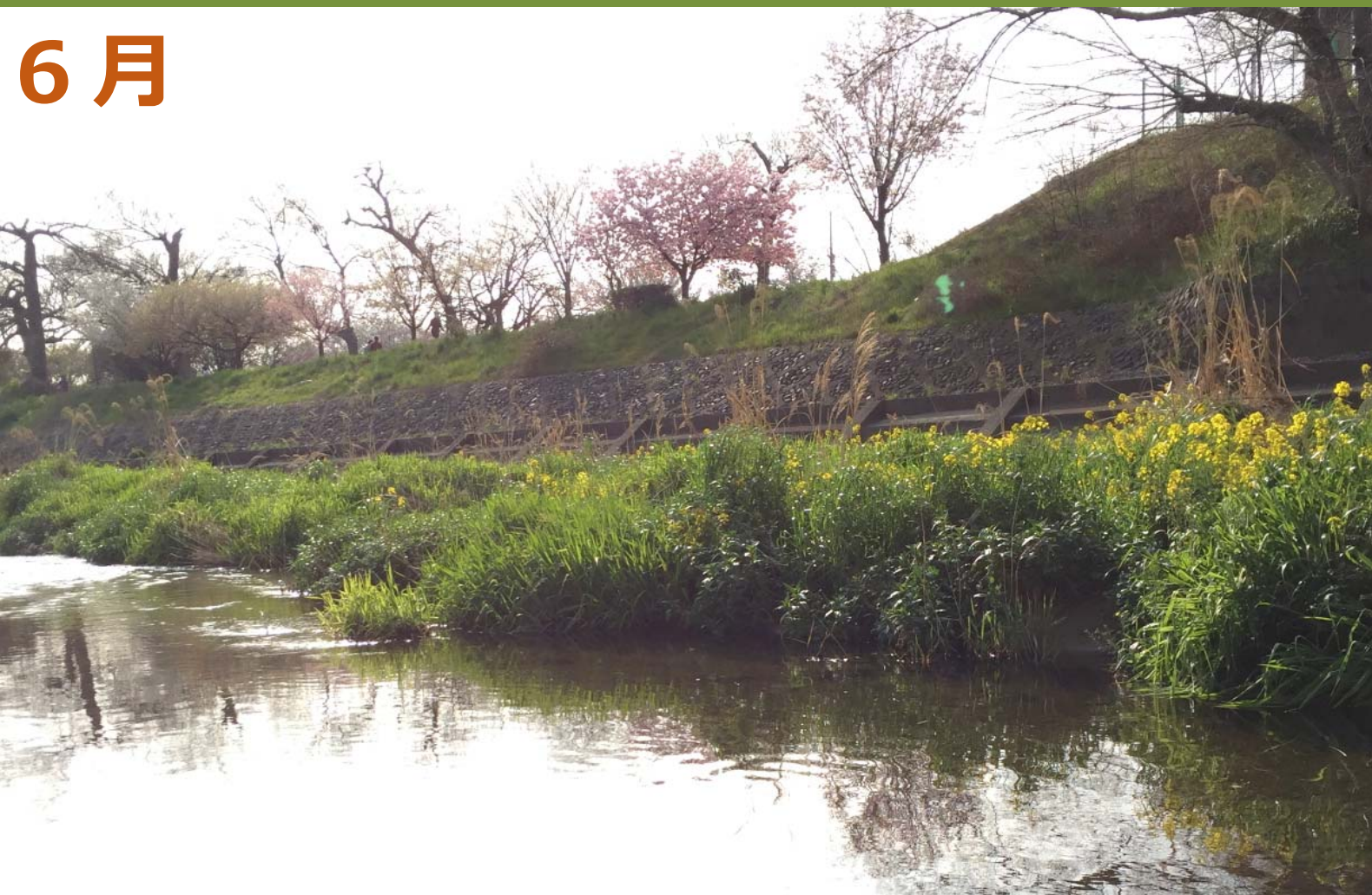
日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当: 和田彰・白尾豪宏)

〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F (公財) リバーフロント研究所内



公益財団法人 リバーフロント研究所 Tel: 03-6228-3861 E-mail: info@arr.net Website: <http://www.arr.net/jp/>

6 月



あの日のあの川 リレー日記 ～第 62 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 62 話主人公 井櫻吉乃

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：愛媛県石手川)

「私の学生時代と川」

いつのこと？： 中学生、高校生

どこの川？： 愛媛県石手川

皆さんこんにちは。安藤さんよりバトンを受け取りました、筑波大学白川研究室の井櫻吉乃です。私は高校生まで愛媛県松山市で育ちました。記憶をたどってみると、私が中学生、高校生と学生時代を過ごす中で最も身近に感じていた川が石手川という川だったように思います。私の実家から松山市の中心部に行く際には必ず石手川を渡ります。私の高校は中心部にあったため、高校生の頃は毎日通学の時に石手川を渡っていました。もちろん、中心部に遊びに行くときも渡っていたので、学生時代にはしょっちゅう石手川を渡っていました。そのような、長い間私の身近にあった石手川との思い出を掘り起こしてみようと思います。

まず、私の地元での学生時代を振り返る前に石手川という川について振り返ってみます。石手川は一級河川重信川水系の支流です。瀬戸内海の気候は降水量が比較的少ないと言われています。そのためでしょうか、石手川は通常はほとんど水が流れていないような川です。たまに大雨が降った日などの翌日はいつもの姿からは考えられないぐらいの量の水が激しい勢いで流れています。川沿いには公園やテニスコートがあり、春には桜がきれいに咲きます。遊びや散歩に訪れる人も多い川です。調べてみたところ「We Love 石手川 河川大清掃～河川環境改善による四国最大の親水空間の創出～」という活動が、地域の魅力や個性を創出している社会資本と地域活動を表彰する手作り郷土賞を受賞していたことがわかりました。地域の人たちによく利用されており、多くの人に愛されている川だと思います。

振り返ってみると、中学生のころは中心部に遊びに行く際に石手川を渡るだけでなく、学校の友達と石手川に遊びに行った思い出が多くあります。部活終わりの授業終わり、休日にも遊びに行きました。目的もなくふらっと行くこともあれば、みんなで花見をしようと思ったこともあります。このリレー日記を書くにあたって学生時代に使っていた携帯の電源を久しぶりに入れて写真フォルダを見返したのですが、思ったよりも石手川で友達と撮った写真がたくさんあって驚きました。じっくり写真を見ていると、友達との楽しい思い出がよみがえってきました。冒頭の写真は、中学生の時友達と石手川公園駅という駅で降りて遊んでいた時に撮った写真です。

高校生のころは、毎日通学のため自転車で石手川に架かる橋を渡っていました。石手川は私の中で当たり前の景色でした。テスト期間で寝不足の日や部活終わりで疲れ切った日も毎日石手川に架かる橋を渡っていました。毎日当たり前にみる川なので普段何も考えずに通り過ぎていましたが、たまに大雨の次の日で流れる水の量が多い日はいつもと様子が違いすぎて面白いな—と思っていたことを覚えています。春に桜が咲いているときには、自転車から降りて写真を撮ることもありました。川と桜の組み合わせって、なんだかいいですね。季節を感じられることは私が川を好きな理由の1つです。いつもより早く学校に行くときには、地域のお年寄りの方たちが川沿いの公園でラジオ体操をしている姿が見えました。こうして思い出してみると、何気なく見ていた景色にもたくさん思い出があったなあと思います。

このリレー日記を書く機会をいただいたことで、これまで私の中で日常の風景の中の1つだった石手川を改めて見つめなおすことができました。学生時代、私にとって石手川は友達との思い出作りの場や癒しを与えてくれる場でした。私の学生時代の日常に石手川という自然があったことを嬉しく思います。私は大学進学で地元を離れたのですが、社会人になるとともにまた、石手川の流れる地元に戻る予定です。社会人になってからはまた学生とは違う楽しさや忙しさがあるでしょう。それでも私の日常には石手川という川が変わらず流れていると思えば、安心した気持ちになれます。皆さんも、ぜひ今身近にある川を見つめなおしたり、川との思い出を掘り起こしたりしてみてください。

最後までお読みいただきありがとうございました。

(次は畑山拓海さんにバトンを託します)

■「土木学会デザイン賞 2022」募集案内（6/30 エントリー〆切・7/1 応募〆切）

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4029.html>

2022年6月1日
 公益社団法人土木学会
 景観・デザイン委員会

土木学会デザイン賞 2022

CIVIL ENGINEERING DESIGN PRIZE 2022,JSCE

2022年度 土木学会デザイン賞 エントリー募集のお知らせ

土木学会デザイン賞は、公益社団法人土木学会 景観デザイン委員会が主催する顕彰制度です。公募対象を広く土木関連物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、継続活動の創発などによって周辺環境や地域と一体となった数多くの創造や保全を実現した作品、およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。

本賞は2001年度に創設され、過去21年間に209作品を表彰しています。近年では、規模は小さくとも地域の日常生活の質力づくりに貢献している作品や、防衛機などの普及品のデザイン性を高めて公共空間の質の底上げを図った製品など、受賞対象も広がっています。これまでの授賞作品は、本賞のウェブサイトにてご覧ください。皆様のご応募をお待ちしております。

対象作品

竣工または完成後1年経過したもの（2021年5月30日以前に竣工または完成したもの）
 （注：2014年度より「竣工2年」から「1年」に変更しております）

日本国内に所在する、道路・橋梁・鉄道・港湾・広場・公園・野・河川・海岸・港湾・施設、役所等の公共空間・公共施設や、駅舎・空港・公共性が高い建築物、橋梁・港湾・水門・港門・防波堤等の構造物等、関連した作品。
 あるいは公共空間で頻率的に使用される製品や材料
 （ただし製品や材料は、すでに製品の使用が開始されることが必要となります）。

2022年度スケジュール

（都合により変更することがございます。詳細は本賞ウェブページにてご確認ください）

作品募集（～7月上旬） ▶ 一次選考会（7月中旬） ▶ 二次選考会（10月中旬） ▶
 最終発表（11月中旬） ▶ 授賞式・受賞者プレゼンテーション（1月下旬）

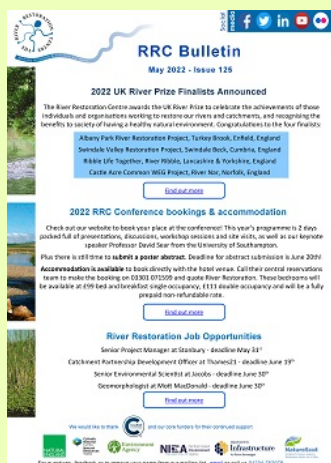
応募に先立ち、エントリーをお願いします。

エントリー受付期間： **2022年5月1日(水)～2022年6月30日(木)**
 応募書類受付期間： **2022年6月1日(水)～2022年7月1日(金)** 当日郵印有効

詳細は土木学会デザイン賞ウェブサイトをご覧ください。
<http://design-prize.sakura.ne.jp>

本デザイン賞の取組に関しまして
 本賞では、デザイン賞の募集を目的とした報賞の募集も行っております。
 受賞者とともに、その活動の発信、後継募集、関係者などから報賞の募集を
 実施することが目的の取組で、そのサポートとして実施させていただきます。詳細はウェブサイト上の「作品募集制度」のページをご覧ください。
 問合せ先 〒103-0044 東京都港区新橋5丁目17番地4階 公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会 デザイン賞事務局 E-mail: prize@jsce.or.jp

■「RRC（英国河川再生センター）最新会報」紹介



<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4032.html>

■「ECRR（欧州河川再生センター）eNEWS 最新号」紹介



<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/4012.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

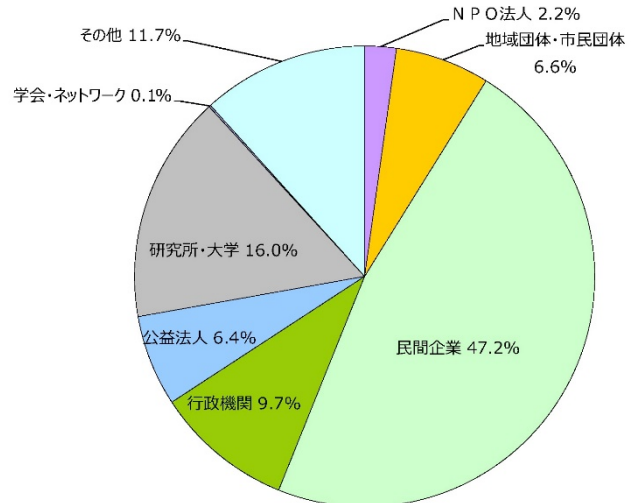
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2022年5月31日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：829名、団体会員数：65団体)

※4～5月の新規入会数： 個人会員 2, 団体会員 2

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>